

平成 22 年度大磯町教育委員会第 6 回定例会会議録

1. 日 時 平成 22 年 9 月 29 日 (水)
開会時間 午前 9 時 00 分
閉会時間 午前 11 時 30 分
2. 場 所 大磯町立図書館 2 階大会議室
3. 出席者 大 橋 伸 明 委員長
岩 井 喜久枝 委員長職務代理者
竹 内 清 委員
曾根田 眞 二 委員
福 島 睦 恵 教育長
二挺木 洋 二 子ども育成課長
林 正 人 子ども育成課主幹
大 隅 則 久 子ども育成課子育て支援室長
松 本 卓 次 生涯学習課長
山 口 章 子 生涯学習課図書館長
佐 川 和 裕 生涯学習課郷土資料館長
山 口 信 彦 子ども育成課副主幹
4. 傍聴者 0 名
5. 前回会議録等の承認
6. 教育長報告
7. 付議事項
議案第 10 号 平成 22 年度大磯町教育委員会の点検・評価について
議案第 11 号 大磯町教育委員会委員長の選挙について
議案第 12 号 大磯町教育委員会委員長職務代理者の指定について
8. 報告事項
報告事項第 1 号 大磯町議会 9 月定例会について
報告事項第 2 号 中学校部活動の夏の大会結果について
報告事項第 3 号 平成 21 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果について
報告事項第 4 号 第 57 回おおいそ文化祭の開催について
報告事項第 5 号 秋季企画展「受け継がれる祈りのかたちー六所神社神像特別公開ー」について
報告事項第 6 号 民間幼稚園選考委員会について

9. その他

(開 会)

出席委員が5名で定足数に達しており、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項の規定により定例会は成立し、現時点で傍聴人はおりませんが、以降傍聴人が見えた場合は、大磯町教育委員会会議規則第14条及び第19条の規定により傍聴を許可します。

(前回会議録等の承認)

委員長より前回会議録の項目を読み上げ、出席委員全員の承認を得る。

教育長報告

教育長) 私からは、8月定例会が開催されました平成22年8月18日から本日までの教育委員会諸行事等について報告させていただきます。8月22日、国府小学校におきまして、避難所開設訓練が実施され、教育委員会事務局職員及び学校職員60名、国府中学校生徒7名が参加し、施設・設備の点検、避難者の誘導などの実践的な訓練を行いました。8月24日、秦野市文化会館で開催されました人権問題講演会に、社会教育指導員及び教員合わせて5名が参加しました。8月25日、各小中学校において、電子黒板を活用した授業に取り組んでいる先生方による実践発表などのコンピュータ研修会を開催しました。8月26日、町村教育長会研修会Aブロック研修会に出席いたしました。生涯学習の推進等について意見交換等を行いました。8月28日及び9月25日、大磯運動公園において、大磯自然観察会を開催し、多数の調査ボランティアのご参加をいただきました。8月30日、中地区教育長会議に出席いたしました。内容といたしましては、教員採用試験の中間報告、不登校・いじめ・暴力行為等の対策、教科用図書採択について情報交換をいたしました。9月1日から28日にかけて、9月議会が開会されました。詳細につきましては、後ほど事務局から報告いたします。9月2日、11名の実行委員の参加を得て、第1回「新成人のつどい」実行委員会を開催し、来年1月10日に予定しています「新成人のつどい」の準備を開始いたしました。9月4日、郷土資料館において、博物館実習生を対象とした、古文書裏打ちの会の公開講座を開催いたしました。9月7日、保健センターにおいて、文化祭運営委員会を開催し、ポスターを決定するとともに、会場設営等について検討いたしました。9月17日国府小中学校生沢分校、9月18日国府保育園、9月26日雨で1日順延になりましたが大磯、国府幼稚園において運動会が開催されました。9月25日、図書館においてOISO学び塾を開催し、土井浩講師による「東海道と大磯宿」をテーマにした町の歴史講座に、41名の参加がありました。そのほか、8月から9月にかけて、各学校では、地域の方々との懇談会を開催し、大勢の方に参加いただき、様々な意見をいただきました。その他の諸行事につきましては、執行状況表のとおりであります。また、今後の予定につきましては、執行予定表をご参照ください。以上でございます。

議案第 10 号 平成 22 年度大磯町教育委員会の点検・評価について

書記が議案を朗読し、教育長から提案理由の説明を行った。

子ども育成課主幹) ただいま教育長からの提案理由にもございましたように、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』の改正に伴い、その法律第 27 条に基づき、昨年度もその執行状況について点検及び評価を行い、結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出し、公表を行いました。今年度も対象年度を平成 21 年度に定め、議会への報告書の提出を 9 月に定め、点検・評価を実施してまいりました。既に、今回の報告書作成にあたり、教育委員の皆様には、自己評価及び事務局の執行事業の評価等をお願いし、素案の段階で何度かご意見等をいただいております。また、前回の定例会の協議の中でもいくつかのご指摘をいただき、加除訂正を加えたものが、お手元の報告書になってございます。それでは、前回の協議の中でご指摘をいただいた部分について、変更点のご説明をいたします。資料をご覧ください。まず、29 ページをご覧ください。(2) 事務連絡調整会議の下から 4 行目になります。前は、ここが「立場は理解できるが、「重く」、様々な・・・」という表現になっていましたが、この「重く」という表現が分かりにくいということで、記載のとおり「内容が多岐にわたり」に改めました。次に、37 ページをご覧ください。③の幼稚園保育園の連携の達成状況が「D」であったものを「C」に改めました。これは、交流の実績等の達成状況からみて、「C」が妥当であろうというご意見から、訂正をさせていただきました。次に 42 ページをご覧ください。③の文化財・埋蔵文化財の資料収集、保護・活用のところでございますが、43 ページの教育委員による評価との整合性を図るという意味で、達成状況及び成果として、記載のとおり「消火訓練」の文章を追加いたしました。以上が大きく変更した点でございますが、9 月 10 日までの間に、各教育委員の方々からのご指摘や事務局で最終確認をした結果、いくつかの誤字脱字の訂正、表現方法や「てにをは」の修正を行いました。冒頭申しましたように、今回、この報告書が完成したことに伴い、改めて、議会への提出と公表についてご了解をいただきたく、付議したものでございます。議案の次のページでございます、委員長から町議会議長宛の報告書提出についての写しの文書のとおり、ご了解いただければ、9 月 30 日付で議長に提出いたしたいと考えております。ご審議の上、ご了解いただけますようお願い申し上げます。以上でございます。

(質疑応答)

委員長) 本当にこれは良く、僕たちは意見をただ書いただけなのに良くまとめられて 1 年間のやってきたことが評価されていると思います。

曾根田委員) 去年の分はインターネットからダウンロードして見たのですが、かなりブラッシュアップされているかなと思います。良くまとまっていると思います。

委員長) 質疑を打ち切り、討論を省略し採決に入ります。議案第 10 号については、

原案のとおりでご異議ありませんでしょうか。

各委員) 異議なし。

委員長) 異議なしの声がありましたので、議案第 10 号 平成 22 年度大磯町教育委員会の点検・評価については原案どおり承認いたします。

議案第 11 号 大磯町教育委員会委員長の選挙について

議案第 12 号 大磯町教育委員会委員長職務代理者の指定について

委員長) 議案第 11 号及び議案第 12 号につきましては、両議案とも人事案件となります。よって、議案の性格上、秘密会とさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員) 異議なし。

委員長) ご了承いただきましたので、これより秘密会とします。

(秘密会)

休憩

委員長) 休憩を閉じて再開します。ただいま秘密会において、審議いたしました議案第 11 号、大磯町教育委員会委員長の選挙については指名推薦の結果、岩井 喜久枝委員が当選されました。また、議案第 12 号、大磯町教育委員会委員長職務代理者の指定については、竹内 清委員が推薦され指定されましたので報告いたします。

岩井委員) あいさつ

竹内委員) あいさつ

報告事項第 1 号 大磯町議会9月定例会について

子ども育成課長) お手元の資料をご覧ください。9月定例会は9月1日から昨日までの28日まで行われました。9月1日初日にはお手元の1ページでございますように横溝千鶴子記念子育て支援基金条例ほか18の議案が出されてございます。教育委員会関係では1番の議案第34号横溝千鶴子記念子育て支援基金条例の制定についてを提出してございます。その他補正予算、決算の認定も提出しました。また、陳情が教育委員会関係で出されてございまして、中地区教職員組合からは「子どもたちに学びを保障するために、少人数学級の実現、教育予算の増額、義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める陳情」が出されました。これにつきましては、机上配布として書類だけを見ただけで審査はないという取り扱いになってございます。また、神奈川私学助成をすすめる会から「国に私学助成予算の削減に反対し、増額を要望する意見書の提出を求める陳情」、「神奈川県私立学校経常費補助の増額と私立高等学校等生徒学費補助金および神奈川県私立学校費緊急支援補助金の対象世帯の拡大、補助額の拡充を要望する意見書の提出を求める陳情」が出されておりますが、こ

れにつきましても机上配布という取り扱いになりました。全国福祉保育労働組合神奈川県本部からは「保育制度改革に関する意見書提出を求める陳情」が出されまして、これについては福祉文教常任委員会へ付託される取り扱いになりました。まず、横溝千鶴子記念子育て支援基金条例についての議案は私から別紙の資料に基づきまして、制定概要、制定理由、条文の説明をいたしました。質疑の方は2, 3ございまして、基金取り崩し、5条関係についてどういう場合を想定されるかという質問がございましたが、主には施設修繕、施設整備ということですが、当面は想定していないという答弁をしております。この基金を活用する場合は寄付者の意向をもって町長が5条の第3項にございますように必要と認めた時をもって基金を取り崩していく、ちなみに障害福祉センターについても、5億円いただいて残ったお金を基金に積んでございます。建ってから7年経ちますが基金を使った活用はしておりません。当面は1千万円ちょっとの基金を積んでいくこととなります。採決の結果、全員の賛成をいただきました。教育委員会の補正予算につきましても、教育委員会関係では子育て支援室の保育料システム、私立幼稚園の就園補助、先ほどの基金の積立金などを計上してございます。補正予算につきましても、別の箇所でも一部修正削除がございまして、議会からの修正案が出されまして可決をしております。続いて9月2日に先ほどの陳情審査がございました。「保育制度改革に関する意見書提出を求める陳情」の内容につきましては、今年6月29日に閣議決定されました、子ども子育て新システム制度(案)要綱がございまして、基本的に子育て支援に対する会計上の問題ですとか、規制緩和ですとか、総合的なものやっという国の方向性が示されまして、それについて保育園の整備の関係については、国がきちんとやっください、保育園の入所については園との直接契約という方向性が示されていますが、そういうことはしないでほしい、保育所の施設の面積の基準がございまして、そのようなものの緩和を国としては打ち出している。市町村の条例を持って緩和することができるという改革がございまして、それもやらないでほしい。あとは保護者の負担、今は国の徴収基準に基づいて出しておりますが、保護者の負担については今のところ、明確になっておりませんが、「子育て支援特別会計」というのを設けて保護者の負担を減らしていく、そうすると地域の格差が出てくるということも困る。それと、民間保育所運営費の一般財源化、今は民間保育所、サンキッズ等には国庫の運営費等が出てございまして、それをやめるという方向性もございまして、これについては国の方は民間保育園の補助はやめないという方向転換がございまして、そういったもろもろの制度改革がございまして、それに対する反対の陳情がございました。陳情者の方は当日はお見えになりませんが、常任委員会と教育委員会との質疑になりましたが、議員さんからは現在の保育待機の状態などのご質問がございました。それで採決の結果、この陳情に対する改革をすることについて市町村、国の義務でやるべきだということに賛成というのが、3人いらっしゃいました。今回の陳情については不採択というのが3人いまして、3対3になりまして、委員長採決ということで委員長については不採択ということで、この陳情については不採択という結論が出てございます。続きまして、9月8日、9日にわたり一般質問がございました。お手元の資料にございますように教育委員会関係では5人6件の質問が出されて

ございます。まず、1ページでございますが、竹内恵美子議員から「学校教育について」と「保育ママについて」の2つの質問が出されてございます。「学校教育について」、「新学習指導要領の「生きる力」の具体的な内容はどのようなものか」、「外国語活動への工夫はどうなっているか」、「教育委員会の方向性はどうか」という大きな3つの質問が出てございます。教育長の方から生きる力を育む理念は現行の学習指導要領で言われていたことで知徳体の対話の取れた教育を目指すものであるということで一般論を回答してございます。外国語活動の工夫については、外国語活動を効果的に進めるために英語指導助手派遣の充実、教職員の専門性指導力向上のための研修、ICT関連機器の活用などをやっていきたいと答弁してございます。教育委員会の方向性については、生きる力の理念を踏まえ、来年度からの完全実施に向けて、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成をし、新しい時代を自ら切り開くことができる学校づくり、人づくりを目指していきたいと答弁してございます。これについての再質問で9月初めに国の方から少人数学級編成を23年度から実施できるという報道がございまして、その件に対する質問がございました。大磯では35人学級を1年生、2年生でやっていますが、これについてどうなのかという質問が出され、教育長の方から国の方で制度化されれば町で出している経費も浮く、その予算についてももう少し別の教育予算に使っていきたいと答弁してございます。あと英語ノートの活用、中学等の連携について再質問がございまして、英語ノートについては活用するために指導主事と小学校の先生と英語指導助手の3者で集まって外国語活動レッシンプランという参考資料を教育委員会で作って授業を展開していくと答弁してございます。また、中学校との連携については小中の情報交換、授業参観、今後は中学校の先生による出前授業などを計画していると答弁してございます。その他、AETの派遣計画、教員の研修、配置、ICT活用などの質問が出されました。大きい2問目では保育ママについての質問がございまして、保育ママというのは家庭福祉委員ですが、ご家庭で資格を持った方が0歳児から3歳児までを預ける制度でございまして、国の方は待機児童対策の1つとして拡充をしたいということがございました。その辺の関係の質問で町の方向性はどうかという質問でございます。教育長の方からは現状は1名いますが、実際、保育はしていないと答弁してございます。他の市町村の状況についても、1対1の密室型の保育になるので拡充が各市町村で図られていないと答弁してございます。密室型では無くて共同保育型というのでも横浜市でやっていますが、そういった検討もしていきたいと答弁してございます。再質問については、他市町村の状況、今後の待機児童対策についての質問がございました。他の状況については厚木市が6名いて、他については先ほどのように登録者がいない、登録してもなかなかニーズもないので制度が普及していないという答弁をしてございます。待機児童対策については、この家庭的保育ということも1つですが分園、家庭的保育、それぞれ認定保育所といった制度もございまして、さまざまな制度を使って待機児童対策をしていきたいと答弁してございます。1ページの下になりますが、山口陽一議員から「国府小学校内プールの内容と建設費は妥当か」というご質問がございました。教育長の方からは生沢プールの廃止に伴いまして、プールの検討につきましては教育委員会内部と町で検討し国府小学校内に25メートルプールと低

学年用のプールを整備することを平成 22 年 3 月に決定したと答弁してご
ざいます。概ねの概算工事費については 1 億 9 千万円ということで答弁してご
ざいます。再質問の中では見積の根拠、視察には何箇所行ったのか、業者からは何
社見積を取ったのか等がございましたので、私の方から、見積の根拠につい
ては、他の市町の工事費、業者からのものを参考にしたと答弁してございま
す。視察については、学校プールについて 2 箇所、屋内プールを 1 箇所視察したと
答弁いたしました。続いて 2 日目になります。5 ページですが、百瀬 恵美子
議員から 2 点目の「平和事業の取り組みについて」ということで質問がござい
ました。この趣旨について、今年度、大磯町は平和市長会議で平和について積
極的にやっていくということで手を挙げていたのですが、今年の事業を見ると
昨年度と変わらないのではないかとという趣旨でご質問されたようでありま
す。教育長の方からは、平和教育の取り組みについて各学校において戦争体験者の
懇話会、被爆者の体験談を聞く場を設けて保護者も対象にしておこなっている。
教科においては国語、社会、道徳などで平和を考える場を設けているという答
弁をしております。再質問については子どもたちも含め大磯町民に平和に対
する意識を改めて、認識を持ってほしいということで教育長の見解はという再
質問がございました。教育長からは、ユネスコ憲章に戦争は人の心のなかで生
まれるものであるから人の心の中に平和の砦を築かなければならないと各学
校に訴えていきたいと答弁してございます。次に 6 ページの一番上で柴崎茂
議員から「教育優先の町を標榜されたが、それはどのように実行されたか、大
磯の教育が何が変わったか」という質問がございましたので、町長に答弁を求
められたものでしたので、町長の方から幼稚園の預かり保育の実施、大磯保
育園の民営化、小磯幼稚園の私立幼稚園誘致、35 人以下学級の実施、I C T 関
連備品の整備、校舎の完全耐震化、高校生就学支援補助、生涯学習人材登録制
度の整備、図書館の窓口委託化、文化財の指定、郷土にゆかりの深い人物の企
画展などを行ってきたという 4 年間の実績を答弁されてございます。再質問が
ございまして、1 点目は大磯幼稚園の芝生化は、やりっぱなしではないかとい
う話がございましたが、去年の夏に芝生を植えまして、秋には冬芝を蒔いて
いると答弁してございます。それと学校の私費に関する質問がございました。藤
沢市の件でそれについて保護者の方から国府中の私費の管理の件の話が出て
いるというご質問というか、お話がございました。それと教育委員会等の事務
的な会議録の不手際の話、各中学校で徴収しています教材費、各中学校とも月
5 千円の副教材費等の徴収をおこなっていますが、それについての教材費が大
磯は高いのではないかというお話もございました。3 年間 5 千円積み立てて 2 万
円程度返している。何で使わないお金を徴収するのかということでプールして
他に使っているのではないかというお話がございました。続きまして同じペー
ジの鈴木京子議員の 2、「月京幼稚園移転の総括を求める」ということで大き
く 3 つ、町長の方からは幼稚園の移転も終わり病院の建替、高度医療の整備を
要望していきたいというような話をしてございます。教育長の方からは、開放
的な幼稚園として園児が明るく楽しく過ごしている、保育園との交流も盛ん
になっていると答弁してございます。その中で大きく 3 つということで、1 点目
は、「病院はどうなっているのか」というご質問でございました。2 点目が「病
院に土地を提供したということで病院に売ったお金の代替でたかとり幼稚園

の土地を買ったお金、整備したお金、収支のバランス、安く買ったのではないか」というお話もございました。それとたかとり幼稚園の施設の関係で雨漏りの件ですとか、音の件や下駄箱の件等、もろもろご指摘がございまして、これにつきましては、私の方から設計上の不備については瑕疵担保期間に直していく、設計上ではない部分について、使い勝手上的の部分については来年度の予算計上等で直していきたいと答弁してございます。一般質問については以上でございます。9月16日に決算特別委員会がございまして、1日目が総務、2日目が建設経済、3日目が教育、4日目が福祉という4日間でしたが教育委員会は3日目に決算特別委員会が開かれまして述べ13人から質問が出てございます。決算委員会については、どんな項目の質問が出たかについて説明させていただきます。学校関係では、児童生徒指導支援事業の内容について、英語指導助手の内容、支援教育推進事業の内容等の質問が出されてございます。子育て支援室関係は幼稚園の保育料、保育園の保育料、それに対する収入未済の内容、今後の対応等の質問をされました。放課後子ども教室、学童保育、保育園の民営化に伴う効果、たかとり幼稚園関係のコンセプトですとか、なぜ電気工作物を作成したのかという質問が出されました。生涯学習関係では、図書館の窓口の委託について、伊藤博文没後100周年記念事業について、子ども読書推進事業のスタートについて、文化財、調査保存事業についての質問がだされました。最終日に人事案件、町税条例の2件の追加議案がございまして、その他に決算の認定の採決がございまして、賛成多数で採決されてございます。

(質疑応答)

曾根田委員) いくつかあります。まず1点目ですけれども、陳情第16号ですが結論的には机上配布で情報提供レベルで結論をどうするという話ではないですよ。この執行委員長の方はどんな方なのですか。教職員の方ですか。

子ども育成課主幹) 教職員で所属が小学校で専任で委員長をやっておられます。

曾根田委員) どうでも良い話かもしれませんが、真ん中くらいにOECDの平均が書いてございますが、プラス33.2人、これは間違っていないですが、OECD平均は23.7人で間違っていると思います。文科省に確認しました。次の陳情第17号ですが、大きな段落の3番目で平成21年度の県内公立学校中学校卒業生以下ずっときて、これはどうでも良いのですが、こういう陳情を出すときには注意してもらいたいと思うのですが、平成9年の2.5%から平成20年には7.2%へと4.8%上昇しています。こういう場合には4.8%ではなくって4.8ポイントの上昇とした方が良いのではないかなと思います。同じように陳情第18号でもポイントで表すのではないかと思いますので補足させていただきました。それから議会の関係でたまたま議会の中継の再放送を見ていて、6ページの柴崎議員の関係で委員会定例会の議事の関係で複数点間違っているところがありますので、そこは教育長以下議長さんも聞いておられると思いますので、そこは間違っているのできちんと直すようにしていただけますか。内容は割愛しますが、何点かあると思うので私も言った覚えがないのできちんと訂正をお願いしたいのが1点。8番の鈴木議員の話ですが、たかとり幼稚園の関係で雨漏りとか質問されていますが、オープンスペースにしていい設計にしたというお話があったのですが、使ってみるとそうでもないという話があったので、雨漏りの件とか、設計の件とか、オープンスペースについて、どんな状況なのでし

ようか。

子育て支援室長) 雨漏りにつきましては、何度か直しを入れたのですが、まだ直っていないという状態です。明日、業者がもう一度現場を見た中で材質がポリカの部分で今年暑かったこともあるのか歪みが出てきているので、それは全面的に製品から見直すように話を進めております。オープンスペースの問題は、そこら辺は一応、議会の方でも答弁していますが、当初、幼稚園とも話をした中で通風とかのコンセプトの中で話しを進めていったのですが、その中で音の反響とかが大きいところがあってそういうところは今後状況をみながら改善をしていこうと思います。今までの幼稚園の作りと大分違いますので、幼稚園の先生方にも運営の中で工夫をされた中で、年度当初、出来たばかりの頃は混乱したことも多かったのですが、いろいろ工夫されて、ある程度は落ち着いてこられた感じがありますが、音の反響については工夫してやっている中でも大きいかなと先生の中でも話が出ています。

曾根田委員) カーテンを買って用意したという話がありましたが、先生の私費を使ったのですか。

子育て支援室長) カーテンにつきましては、通風とか遮光ということで当初、職員室にはブラインドがあって、他の教室には入っていなかったもので、特に西側の西日の関係があって年長さんのクラスの方が日が入ってくるので検討してもらえないかという話はできています。あと、ホール側と北側の方は道と接しているので、外から丸見えみたいになってしまっているのも、防犯状況もどうなのかという話もありますので、そこら辺はPTAの方で設置をしていただけるような形で話が進んでいます。

曾根田委員) 1点目の雨漏りの件は、施工に問題があるのではないかと思います。2点目については使ってみてわかるというのもあるので難しいよね。今後どう活かしていくかという話ですけれども、実際に使ってみて課題が見えてくるということもあり難しいですよ。

子ども育成課長) 議会でも答弁したのですが、作ってみて、こっちのコンセプトを優先したので、あっちの使い勝手がというのがありますので、実際の先生と話合っていて、今の施設をどう活かして保育していくか、ここはどうやっても無理だという話があればそれは直していかなければいけない部分もございますので、屋根の部分とかは論外で、向こうも小手先でコーキングとかかしていたのですが、そういう話ではないだろうということで、材質から変えるという話で進んでいます。幼稚園の先生も入れた中で直す部分は来年度の予算に載せていきたいと思っています。それと議会の会議録の件ですけれども、こちらの方も主幹の関係のところでは事実とは違うようなこともございまして、議会事務局の方にもこういった事実とは違うものについては訂正ができるのかという投げかけはしてございます。ですが、なかなか難しい、発言者の承認がいるような話もございまして、会議録の中で事実と違うことを言われてしまったことについて訂正の会議録を直すというのは、今のところ現状では難しいというような回答もいただいております。また再度、議会事務局へ要請していきたいと思っております。

曾根田委員) 昨日も見えていたのですが、再放送で最後の議長の発言で会議録を回して修正しますと明言されており、議会事務局が修正出来ないというのはおかし

いじゃないですかと言ってください。もし直せないというなら私が申し入れます。

子ども育成課長) 事務局の方からも要請していきますけれども、曾根田委員、本人からも言うことであれば、またご相談させてください。

竹内委員) 1ページの竹内恵美子議員の質問の学校教育の(2)外国語活動の重視を効果的に進めるにはということで3点答えられたということで、英語指導助手の派遣についてと研修、ICTの活用という答弁をされたということですが、先ほどの教育長の報告の中で8月25日にコンピュータの研修をやったということで電子黒板を使ったとありましたが、この内容を教えてもらえればと思います。英語ノートもそうですが、電子黒板を使った授業というのはかなり役に立つのではないかという意見を持っているので、せっかく電子黒板があるので、それを上手に使うと指導する上でメリット、助けになるのではないかと思います。それに取り掛かるまでがなかなか大変だと思いますが、使い始めると非常に使いやすいかなと思います。

子ども育成課主幹) 8月25日の研修は研究所の主催で行った研修でございます。先立って8月に教育委員会主催で研修会を開きまして、外国語活動に限らず2回、7月におこなった時には筑波から中学校の先生に講師として2人来ていただいて、いろいろな教科でこんな活用をしていますよというのを講師の先生と触れながらやったのが1回目で、それを受けて夏休み中に先生方も各学校で電子黒板を使いながらある程度先進的にやっている先生方の発表会を8月25日にやりました。私の学校ではこの教科でこのように使っていますよというのを代表が発表して、後半には業者の方が使い方の研修をやったというのが8月25日の研修です。外国語活動の電子黒板の研修もやりまして、夏季休業中に2回、外国語活動の研修をやっておりまして、そのうちの後半の2回目は電子黒板を使っての研修を行いました。講師の先生が電子黒板を使いながら、実際に発音も音として出ますので、いろんな教材を使ったりして、研修に来た先生方も生徒になった気持ちでそういうことをやって、英語ノートともタイアップしていますので使い道があるのかなと思っております。

竹内委員) 高いお金で購入して今、話題の品物なので、有効な活用をお願いできたらと思います。

教育長) 今、竹内委員のご指摘は一般質問の中で竹内恵美子議員から同様のご指摘をいただきました。せっかく導入したICT関係の機器を無駄にしないで活用してほしいというご指摘もいただいております。夏季休業明けに小学校、中学校等で授業参観等がございました。参観した中で道徳の時間、海がめが海に戻っていく映像ですとか、国語の授業の中でカブを手伝ってもらって順番に抜いていくお話の場面や教科書を写しまして、効果的に活用されていまして。また、算数、数学でも電子黒板を使って台形とか平行四辺形などの図形を選んでしるしを付けていくなど、電子黒板やテレビを使った授業が増えている印象を受けています。昨日、園長、校長先生方の会議がありましたので、9月議会の報告の中で今、私が申しあげた電子黒板、デジタルテレビの活用を改めてお願いをした状況でございます。ますます活用が図られていくと期待もしていますし、各学校にもお願いをしていきたいと思っております。

委員長) 電子黒板は小学校で先生方もパソコンを繋いで使うので、ぜひ小学校の先生

方にも1人1台パソコンを導入していただけると、もっと電子黒板が活用され
ると思います。

竹内委員) 来年度から新しい指導要領が実施されるので、教員の皆さんはそれだけ忙
しくなるので、授業の補助的な教材として、ぜひ有効に活用してもらった方が、
自分のためにもなると思ってもらえるように、いろいろな研修の場等を用意し
ていただければと思います。

教育長) 小学校では学年の先生方が集まって教材研究をし、その中で電子黒板をどの
ように使っていくかということで、電子黒板の便利なところは1組で使ったも
のを2組でも3組でも使えることですので、学年として共同で教材研究をし、
その機器をどのように使っていくかという取り組みも始まってきているよう
ですので、その点も期待をしたいと思います。

報告事項第2号 中学校部活動の夏の大会結果について

子ども育成課主幹) 報告事項第2号 中学校部活動、夏の大会結果について報告させ
ていただきます。8月の連絡調整会議の中で、多少、お話しをさせていただい
ておりますが、改めて夏の大会全般につきましてご報告させていただきます。
資料をご覧ください。どの部活動も日頃の練習の成果を発揮すべくベストを尽
くしたようですが、これも、毎年のことですが、県大会以上に駒を進
めるのは大変のようでございます。まず、ソフトテニスの関係でございますが、
両中学校とも大変よい成績を修めております。団体では、大磯中学校の男子及
び国府中学校の女子がそれぞれ県大会で優勝し、関東大会に出場しております。
関東大会では、大磯中男子が全国大会への出場は逃しましたが第3位、国府中
学校女子がベスト16に入りました。また、個人戦でも、大磯中学校の男子2
ペアが、優勝と第3位となり、関東大会に出場しました。国府中学校の女子
も2ペアが第5位となり、関東大会に出場いたしました。また、水泳競技で
も国府中学校の女子が100mバタフライで関東大会に出場しております。また、
陸上競技大会につきましては、8月28日に中郡陸上、駅伝の中郡大会が9月
12日に開催され、それぞれ県大会が10月2日及び11月6日に開催されます。
残念ながら駅伝の県大会には出場できませんが、県大会には、国府中学校の男
子が3000mで出場する予定でございます。なお、県の陸上競技大会を最後に
3年生にとっての中学校体育連盟関連の大会は終了します。すでに、一部の競
技では1・2年生を中心にした新人戦が開催されているという状況ございま
す。一方、運動部活動以外では、西湘吹奏楽コンクールで大磯・国府両中学校
吹奏楽部がともに金賞を受賞し、国府中学校は、さらに県大会にも出場いたし
ました。惜しくも東関東吹奏楽コンクールの出場は逃しましたが、国府中学校
は県大会においても金賞を受賞いたしました。

(質疑応答)

曾根田委員) ソフトテニスで男女共に中ブロックで準優勝だったのに県では優勝した
んですね。

子ども育成課主幹) 中ブロックでは秦野北中学校という同じく強い学校がありまして、
そこに惜しくも敗れた。また県大会には4校参加しますので、そこでは別の対

戦になりますので、数年前には関東大会までずっと同じ地区で争ったこともありますので、地区的にはソフトテニスの強い地区だと思います。

竹内委員) 全体的に学校の規模がそんなに大きくないのに両校共、良い成績を上げているのでうれしく思っています。大磯中のところで剣道から陸上までのところで部はないが希望者が参加とありますが、これはたぶん出場する場合には教員の引率等がないといけないと思いましたが、その辺の対応の仕方、学校の体制を教えてください。

子ども育成課主幹) 竹内委員からご指摘のとおり勝手に出場した訳ではなく、水泳も同様ですが、部としては剣道部は数年前からございません。柔道部も昨年をもって募集をしておりません。陸上部も同じように部が存在しない状況にあります。特に柔剣道について道場等で小学校からやっている子どもたちがいますので、大会に参加したい場合は参加できますよということで、参加したい場合は、教員が引率をして連れていくというシステムになってございます。これは水泳も同様です。陸上競技については、個人ではなく、駅伝大会も、ある部活が参加した状況です。国府中の方も書いてございませんが、同じような体制で希望があれば教員が引率して大会に望んでいます。

曾根田委員) この場合の経費はどうなりますか。

子ども育成課主幹) 参加に対しての交通費については、補助金を町の方で出しています。県大会までは50%補助しています。関東、全国以上は全額で出しています。

報告事項第3号 平成21年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果について

子ども育成課主幹) 報告事項第3号 平成21年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果につきまして報告いたします。資料をご覧ください。内容は、先般、文部科学省から発表されました「平成21年度児童生徒指導上の諸問題に関する調査」の調査結果について、全国・神奈川県、の結果に加え、大磯町の状況をまとめたものでございます。8月の段階で既に「不登校」についてのみ、先に結果が発表されておりましたので、今回の文科省の発表には「不登校」が除かれておりましたが、資料では先に発表されました「不登校」についても記載しております。また、今回の発表の調査結果の項目は7項目でございましたが、その中から、「暴力行為」、「いじめ」と先ほど申しました「不登校」の3つを報告させていただきます。まず、全国の概要でございますが、『暴力行為』発生件数は60,913件で、前年度に比べ約2.2ポイントの増加となっており、暴力行為につきましては、4年連続で増加しております。校種別を比較しますと、件数では中学校が全体の約72%をしめ、小学校が約12%、高等学校が約16%となっておりますが、高等学校が前年度比で減少している一方で、小・中学校の件数が前年度比で3.2ポイント増でございまして、暴力行為の低年齢化の傾向がうかがわれます。形態別では、「生徒間暴力」56%、「器物損壊」27%、「対教師」14%、「対人暴力」3%となっております。『いじめ』につきましては、平成18年度から「いじめ」の定義が見直された関係で、18年度は、前年に比べ約6倍に跳ね上がったという結果でございましたが、その後の3年

間につきましては、減少傾向にあります。21年度も前年度比で約14ポイント減でございます。学年別のいじめの発生件数は小学校では学年が上がるにつれて増加し、6年生で若干減少しますが中1で最も件数が増えるという傾向がうかがえます。これは例年このような傾向が見られます。『不登校』につきましては、3.4ポイントの減少となっております。不登校につきましては、学年が上がるにしたがって増加していくのは例年通りですが、不登校の状態が前年度から継続している児童生徒の数は、学年にもよりますが3分の1から半数が継続して不登校となっております。その中で、中学3年生では約64%が継続しての不登校となっております。次に、神奈川県のご概要でございます。『暴力行為』は、全体で約3.3ポイントの減でございますが、小学校だけが6.5ポイントの増となっております。暴力行為の低年齢化が伺えます。ちなみに神奈川県の暴力行為は全国ワースト1で5年連続でございます。『いじめ』につきましては、全体で8ポイントの減でございますが、校種別では、小学校では学年が進むにつれ増加し、中学校1年生でピークを迎え、その後減少という、ほぼ全国と同様の傾向がみられます。『不登校』につきましては、全体で約2.2ポイントの減となっておりますが、出現率では中学校が3.79で、全国を大きく上回っております。最後に、大磯町のご概要でございますが『暴力行為』発生件数は、小学校における2件は分校で発生し、中学校での43件中31件が分校で発生しておりますが、分校を除く件数は、ここ数年は10件前後で横ばいでございます。ご承知のように、分校につきましては、児童生徒が生徒指導上の配慮を要する子どもたちであることから、開校以来、学園と分校の職員が連携を密にし、児童生徒指導に努めてきたことが、ここ数年、暴力行為が減少してきたことにつながったのかもしれない。形態別では、「生徒間暴力」がほとんどで、「器物損壊」「対教師暴力」の順となっております。『いじめ』につきましては、全国・神奈川県と同様に21年度は大きく減少しております。先ほども申しましたように、平成18年度にいじめの定義が見直され、その年をピークに減少しているのが全国や県の傾向でございます。大磯町も昨年は一旦増加しましたが、再び大きく減少いたしました。この結果については、新聞報道等にもございましたが、有識者からはやや懐疑的な発言もございました。もともとこのいじめの認知には、教師自身がいかに子ども一人ひとりをよく観察し、「いじめ」であると認知できるかということが問われ、教育相談や子どもからのアンケート調査等を実施するなど、常に実態把握に努めることが大切であるということで、18年度の調査では、ある程度全国的にそのようなことを考慮した調査が進められた結果、大きく増加したという経緯がございました。大磯町教育委員会といたしましても、21年度は減少はしておりますが、今一度各学校における教育相談やアンケート調査の実施等により「いじめ」を見逃さない体制づくりをお願いしていきたいと考えております。次に『不登校』につきましては、小学校では2名の減、中学校では3名の減となっております。出現率も大きく減少しており、平成16年度をピークに、減少傾向にあります。これは、教育委員会として、不登校対策の一環として行っている巡回訪問相談や各学校での教育相談コーディネータを中心とした体制づくりが多少なりとも機能してきたとも考えられます。今後とも、これらの生徒指導上の諸問題への対応として、中学校に「心の教室相談員」「スクールカウンセラー」を、小学校には小学校指導協力員を配置し、教

育相談や問題行動への対応や未然防止に努めていきたいと考えております。

(質疑応答)

曾根田委員) 資料3で2のいじめで学年、男女別の中1の合計の「5」は「2」の間違いですか。

子ども育成課主幹) 2人の間違いです。

曾根田委員) いじめの学校種別のところですが、17年、18年を境にして、隔年ごとにアップダウンしているのは意味がありますか。

子ども育成課主幹) 17年、18年の変化については先ほどお話したとおりですが、19年で減して20年で増加したというのはあまり思いあたるところがないのですが、毎年この結果を受けて学校に調査結果をお示ししています。やはり教育相談あるいは、アンケート調査をしていじめを認知してくださいとこちらも強くお願いした年は、学校側も意識してやるのかなということで、決してこれをさぼっていた訳ではないと思いますが、子どもたちが劇的に出入りする訳ではないのでいじめの件数が劇的に変わるとは思わないので、もしかしたら見る側の問題かなと思います。

曾根田委員) これは認知件数ですよ。認知件数とは僕が聞いた範囲では警察とか捜査機関が認識した件数と聞いていますが、そうではないですよ。

子ども育成課主幹) そういう意味合いではなくあくまでも先ほどのとおりです。

曾根田委員) 不登校の関係ですが学校種別と学年別ですが、教育委員会の点検評価で平成14年から7年間で半減とありますが、15、16、17で山になったり谷になったりで何か手を打ったのですか。

子ども育成課主幹) 具体的に目に見える形で手を打ったのは、先ほどお話した巡回訪問、チームを組んで各学校に巡回することによって個々のケースを拾い上げてきたのは、ここで3年目ですから平成20年度からになります。18年、19年の減っているのは、制度としていろんな教育相談関係ですとか、スクールカウンセラーとか学校で相談の体制が整い始めた時期だったので、それに合わせてチームとして教育委員会も加わってやっていって、学校の体制も徐々に出来ていった時期だと思います。

曾根田委員) いじめの関係ですが、先日の国府中学校の地域フォーラムで中丸地区に参加したのですが、このいじめの数値というのは基本的に国府中学校と理解して良いのですか。地域フォーラムの冒頭の校長の挨拶の中で我校にはいじめがありますと公言されたので、正直だなと思ったのですが、あまりいじめがあることは良いことではないですよ。学校の件数はどうなっているのですか。

子ども育成課主幹) いじめの件数については、分校は括弧書きで表しています。小学校、中学校、両方とも数的にはございます。内訳は持っておりませんが、両校とも含まれています。

曾根田委員) そうすると大磯中の校長はいじめがないと言っていたのですが、話が違うということですか。

子ども育成課主幹) これは平成21年度になります。

曾根田委員) 保護者の方、地域の方がいる前でいじめがありますと公言したのであまり良くないなと思ったので、気になっていたのは事実です。これは21年度ですね。

竹内委員) この中で20年度でも、21年度でも教育委員会まで上がってきた件数はどれくらいですか。

子ども育成課主幹) 正式にいじめの問題で学校から大きな問題となってこういう対応をしましたという形で上がってきたものはこの中にはないです。

竹内委員) 保護者からはありますか。

子ども育成課主幹) 保護者の方から訴えがあって、経営者会、教頭会で口頭で聞いていますという話しはしております。

竹内委員) それは数件ですか。

子ども育成課主幹) 保護者からの訴えでそれがいじめに当たるものは、小学校、中学校含めて年に数件あります。

竹内委員) それが基本は自分の担任のところに行くのだろうと、それかもしくは学校の管理職へと話がいく。学校に言ってもしょうがないから教育委員会の方へいくというケースもあると思います。もしそうであれば学校に対する指導や教育委員会との連携を良くしていく必要があると思います。

子ども育成課主幹) 今、言われたものやいろいろなケースがございます。担任を通して学校に申し出て解決策を探ったり、いろいろなやり取りをした中で、教育委員会に来られる方と一気に教育委員会に話をしに来る方といずれの場合にも担任や学年主任や教頭の方にもご相談されてはどうですかというアクションをとります。その関係でなかなか敷居が高いという話になればこちらから話をさせていただくことを必ずしますし、基本的には私がいただいたものは必ず学校に投げかけてよろしいですかという投げかけをして、できるだけ学校と保護者の方の間で解決できるようにこちらはフォローしていきたいと思っております。

竹内委員) 学校に投げかけた場合に事後処理というか、学校がどういう対応を取ったのか教育委員会として把握されていますでしょうか。

子ども育成課主幹) もちろんそれはこちらで結果については、報告をお願いしますと伝えてあります。必ずそのやり取りはしております。

教育長) 先ほど地域フォーラムの話がでましたが、私も国府中学校の地域フォーラム、大磯中学校の地域ふれあいの集いに参加をしまして、その中でやはりいじめ等について話題がでました。その折に私は、先生方によりきめ細やかに子どものSOSのサインをキャッチしていく「そういう目」「そういう耳」「そういう心」「そういうものの感性」をもっと磨いてほしいと先生方にはそういうお願いをし、保護者の方々には仮に図式で言えば、いじめている子がいていじめられている子がいる訳ですけれども、他の子、周りにいてそれを見ている子はたくさんいる訳ですね。保護者へのお願いは自分たちのクラスの中につらい思いとか苦しい思いとか悲しい思いとか痛い思いをしている子がいたとすれば、それに気づいたとしたら「大丈夫」、「どうしたの」という言葉掛けができる、してくれる子どもたちにそういうお話を家庭ですてほしいというお話をさせていただきました。このいじめの現象の中で人間と人間との関係を断ち切る言葉が、バカとか死ねとかあっちいけとかいう言葉で人間関係を作れない訳です、そういう言葉で、関係を断ち切る行為というのがあります。例えば、無視をすればかいうのはそういうことです。そういう言葉が残念ながら学校の中で日常的に飛び交っているという現実が方々あります。大変辛いことですが、私は保護者

に訴えたことは、「関係を育んでいく言葉」、「関係を深めていく言葉、行為」を子どもたちに大いに使ってもらうように保護者から子どもたちにお話をしてもらいたいというお話をしました。その関係を作っていく言葉とは、先ほどお話した言葉ですが、子どもたちの日常の中で増えていけばいくほど、何かあった時に「どうしたの」、「大丈夫」、これは周り回って自分の子どもの大変な危機の状況から助け出していくことなんだということをお話させていただきました。1つ戻りますが、不登校の件で大分減ってきましたがその原因は処方箋はあったのかという質問がありましたが、1つ数年前から同じ月に3日間学校を休んだ子どもがいたらその子どもに必ずなんらかのアクションを起こしましょう、電話連絡でも良い、家庭訪問でもお手紙でも何かしらその子に対してアクションを起こすということをやっています。そのことが先生方の意識改革にずいぶん繋がっているんだらうと、先生が絶対諦めたら駄目なんです。不登校をなくすために、先生があの子はずっと休んでしまっているからいいよと思った時点でもう不登校は立ち直ることができないのです。先生が絶対諦めないこの姿勢が保護者に繋がり、当該の子どもに伝わっていくのです。先生方のその温かい思いを伝えていく営みが3日休んだらアクションを起こすことに伝わって子どもたち、保護者にじわじわしみてっているように思います。

曾根田委員) 誤解しないでほしいのは、国府中学校の校長を非難する訳では無くて、むしろいじめがあることをいうことは良い事で、ないないと隠すよりはいじめがあることを校長または教師あるいは教育委員会の中で保護者を含めて未然に対応していくことの一因になれば良いと思って発言しました。

報告事項第4号 第57回おいそ文化祭の開催について

生涯学習課長) 報告事項第4号第57回おいそ文化祭の開催について、資料をご覧ください。本年度のおいそ文化祭も昨年度に引き続き、町内公共施設を利用した分散型で開催いたします。開催日は10月23日、土曜日、10月24日、日曜日の2日間となり、地域会館などにおきましても10月16日、土曜日から各地区の文化祭が開催されます。今年度も、大磯町文化団体連盟のご協力をいただき、展示・発表部門に多くの団体が参加されるとともに、実行委員会を中心に各会場の準備や運営については、参加団体による積極的な協力が行われます。資料をお開きいただき、「おいそ文化祭会場案内図」をご覧ください。まず、展示会場としては、保健センターと図書館を使用いたします。保健センター・図書館ともに、展示のほか体験コーナーなども開催されます。次に、福祉センターさざれ石2階レクリエーション室では、23日、土曜日の9時からオープニングセレモニーが開催され、引き続き翌24日まで各団体による発表部門の会場となります。県立城山公園では、24日、日曜日に茶室「城山庵」でお茶会が開催され、郷土資料館では個人を対象とした公募作品展であります「おいそ美術展」とともに、11月3日、祝日に「古文書裏打ち体験会」が開催されます。また、中丸の西長院では、24日、日曜日に大磯町指定有形文化財特別公開として、中丸身代わり地蔵尊が公開されます。なお、後ほど報告いたしますが、秋

季企画展「受け継がれる祈りのかたち」―六所神社神像特別公開―が10月17日、日曜日から開催となります。内容につきましては、記載のとおりでございますが、多数の方が各会場にご来場いただけるよう、今回も「おおいそ文化祭～会場めぐり～スタンプラリー」を開催します。4会場に置かれたスタンプのうち3個以上のスタンプが揃った方には、参加団体から寄贈されたポストカードや手工芸品などをプレゼントする催しも行ってまいります。各団体から少しずつ寄贈をいただいて現在400点ほど集まっております。裏面につきましては、各地区などで開催される文化祭行事を紹介しており、本年度は昨年より1地区が新たに加わり、地域会館をはじめとした14会場で実施されます。なお、文化祭開催について町民への周知につきましては、広報10月号にあわせたパンフレットの全戸配布、町内掲示板へのポスター掲示とともに、参加団体にもそれぞれご協力をいただきPRを行ってまいります。以上です。

(質疑応答)

委員長) 今年も会場が分散型で見にくい点もあるかと思いますが、去年も僕はスタンプラリーをやったのですが、今年もスタンプラリーがあるのでやろうと思います。

教育長) 合わせて大磯中学校、国府中学校のそれぞれ文化祭もありますので、ご参加いただければと思います。

報告事項第5号 秋季企画展「受け継がれる祈りのかたち―六所神社神像特別公開―」について

郷土資料館長) 報告事項第5号郷土資料館秋季企画展について報告いたします。展示名称は、「受け継がれる祈りのかたち―六所神社神像特別公開―」というテーマでタイトルを付けております。企画の経緯でございますが、過去に神奈川県が記念事業といたしまして県内全域の神社の社宝を調査いたしました。これは、神奈川県立歴史博物館と共同で調査し、その成果が平成20年に神奈川県立歴史博物館で展示公開されました。大磯町でも調査に協力いたしました。町内から高来神社の御神像と六所神社の御神像が出展され、いずれも高い評価をいただきました。それを受けまして高来神社、六所神社の神像を町の指定といたしましたが、さらに平成21年2月3日付けで六所神社の御神像2体が県の指定重要文化財として指定されました。その後、高来神社の御神像については、3回程郷土資料館で公開展示いたしましたけれども、六所神社の県の指定物件につきましては、その後公開はされておらず、地元からもその公開を望まれる声が大分高くなってきておりました。六所神社としても展示準備をされておりますが、公共の資料館の中で展示をして広く一般の方の興味を持っていただくような事業をとということで、今回の企画展が企画されることになりました。内容は、六所神社の2体の県指定物件をお借りしまして展示いたします。それ以外に六所神社で所蔵されております社宝をお借りします。それから六所神社に関連の深い国府祭についても紹介をして行こうということで、その関連資料を展示いたします。会期は10月17日、日曜日から12月5日、日曜

日まで実質 43 日間の会期を予定しております。また、関連事業といたしまして相模国府祭の鷺の舞を実演しようということで、相模国府祭鷺の舞保存会の協力をいただき、日程といたしましては 10 月 17 日、日曜日、午後 2 時から、11 月 14 日、日曜日、午後 2 時から 2 回、資料館の研修室において実演をしていただきます。また、先ほど大磯文化祭の中で紹介されましたが中丸にございます西長院の身代わり地蔵尊を利用して地域おこしをしようという動きが地元であり、郷土資料館も一緒に協力し、年に 3 回公開をということで企画をしてまいりました。その内の 1 回、11 月 24 日の特別公開を、大磯文化祭としても位置づけて、合わせて拝観ツアーも企画しております。郷土資料館での展示の解説とともに、城山公園の近くにある身代わり地蔵尊を、参加者と一緒にツアーを組んで拝観し鑑賞しようということをして 11 月 24 日に行います。なお、企画展については、主催は郷土資料館ですが、六所神社、鷺の舞保存会からも全面的な協力をいただきながら開催いたします。

(質疑応答)

委員長) この鷺の舞を実演するにあたって、研修室に何名くらいの方が見学できるのですか。

郷土資料館長) 実演にあたっては、本来は山車の上で舞うものですが、山車を持ち込むことはできませんので、国民文化祭で静岡県に行った時に仮の台を作られたそうですので、それを持ち込みまして山車の上の雰囲気を出すようなにやっていただけのことです。実際に私はその台を拝見してないのですが、それ程、大きなものではないので研修室の中に持ち込むことが出来ると聞いています。研修室の中では、椅子席を設けるのか、立ち見のような形で見ていただくのか検討していきます。通常、椅子を出して 40、50 人入りますが、椅子を出さなければもっとたくさん入りますので、来た方には不便なく見ていただける状態にはしたいと思います。

報告事項第 6 号 民間幼稚園選考委員会について

子育て支援室長) 民間幼稚園誘致の経過につきまして報告させていただきます。まず選考委員会ですが、第 1 回目を 5 月 7 日に開催した後、7 月までに 5 回開催し、募集要項の作成、審査表を決定しました。またその間の 6 月 27 日には、民間幼稚園による小磯幼稚園の視察を実施し 10 法人が視察しました。募集につきましては、8 月 2 日から 8 月 31 日までの間で実施し、4 法人の応募がありました。今後の選考スケジュールにつきましては、9 月 30 日に第 6 回選考委員会により応募法人の財務事前審査を行い、10 月に第 1 次書類審査、11 月・12 月に第 2 次審査として現地調査、プレゼンを行い、12 月を目途に選考決定を行いたいと考えております。その後の神奈川県への認可申請等は、資料のとおりです。説明は、以上となります。

その他

子ども育成課長) 次回の定例会につきましては、10月20日水曜日、4階第1会議室で午前9時から行います。午後からは生沢分校への訪問がございます。よろしくお願いいたします。

曾根田委員) 2点あります。一つは、中学校の地域フォーラムが終わりましたが、大磯中学校のフォーラムの中で「外国語のCDを付けてくれ」とかいろいろな要望がありました。他の会場でも予算に絡むものがあったのでしょうか。

子ども育成課主幹) 場所によってグループ討議だったり、挨拶を兼ねて全体の一つの話題だったりして一概には言えませんが、過去の例ですと予算に絡む質問があってそれが話題となる場合もありました。事務局も参加していますので、まとめたものを教育委員さんに予算の前にお示したい。

曾根田委員) 発言したのは、電子黒板を使用して英語とかできると思いましたので、その辺を加味しながら検討したほうがいいかなと思って発言しました。2点目は、私の感じたことなのですが、大磯中学校の地域フォーラムで違和感を覚えたのは、前教育委員が今度町長に立候補される方を案内していろいろ紹介していたので、地域フォーラムの趣旨を外れていたのが残念だったと思います。前教育委員は、後援会のメインの方でもありますので、前日プリンスホテルでキックオフされたので、地域フォーラムの場をその様に使われ違和感を覚えました。地域の方として個人的に参加されるのはいいのですが、そういう方(後援会のメインの方で前教育関係者)と一緒にこられてそういう場に顔を出すのは、ちょっと地域フォーラムの趣旨をはき違われたのかなと感じました。どうのこうのではなくって、そういうことがあったので私は感じたままをお話しました。ちょっとぼやけて言ったので判らないかもしれませんが、校長室に挨拶をして帰ろうとした時、その方たちがいらっしゃったので私は帰ってしまったということがありましたので所感を申し上げました。

(閉会)

会議の経過を記載し、その相違ないことを証しここに署名する。

平成 22 年 10 月 20 日

委 員 長 _____

委員長職務代理者 _____

委 員 _____

委 員 _____